



おおくす



校長 市川 善浩

全国学力・学習状況調査 結果(概要)

4月18日(木)に、6年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果と分析(概要)と今後の取組についてお知らせします。なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定部分であり、学校における教育活動の一側面であることを考慮しつつ、ご家庭でのご協力のもと、今後、子どもたちの学力向上等への取組に活かしていきます。

(1) 平均正答率

	長太小学校	三重県	全 国	全国比
国 語	—	67.0	67.7	+2.3
算 数	—	62.0	63.4	+3.0

(2) 教科に関する調査 << 【 】内は本校正答率や全国比(抜粋)>>

- ：強み(平均正答率が80%以上、または全国比+5以上)
- ：弱み(平均正答率が20%未満、または全国比-5以上)
- ▲：やや弱み(平均正答率が30%未満、または全国比-2以上)

【国 語】

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。
【68.2% 全国比：+5.7】
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。
【72.7% 全国比：+8.9】
- 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
【84.1% 全国比：+3.8】
- 文の中における主語と述語の関係を捉えることができる。
【68.2% 全国比：+5.9】
- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(2問出題)
【57.7% 全国比：-2.0】
- ▲話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。
【72.7% 全国比：-3.2】
- ▲人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
【68.2% 全国比：-4.4】

《国語についての分析と取組》

- ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域に強みが見られた。また、記述式問題に対しての正答率が高く、全問題における無回答率も低かった。これは、学校全体で「綴り方」に取り組んできたことから得られた強みである。一方、たくさんの情報の中から、必要な情報を取捨選択する力、及び同音の漢字については、意味を理解して覚えるということに弱みが見られた。
- ・これまで本校が大切にしてきた、「綴り方」の取組を継続し「書く力」を高めていく。その際に、漢字の使い方など指導し、意味の当てはまる漢字を利用することを習慣づける。
- ・「YOMU ワークシート」（鈴鹿市内全ての小中学校が取り組んでいるもの）の継続した取組を行い文章の要約、論理だてて説明する力をつける。
- ・読書活動の推進および、新聞も含め活字に慣れ親しむ習慣をつける。
- ・授業での発表の際には、全教科を通じて、「結論」→「理由および根拠」というように話す指導をしていく。

【算 数】

○角柱の底面や側面に注目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。

【83.7% 全国比：+12.1】

○除数が少数である場合の除法の計算ができる。

【79.1% 全国比：+9.4】

○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。

【79.1% 全国比：+9.5】

○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断しその理由を言葉や数を用いて記述できる

【37.2% 全国比：+5.4】

○示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断できる。

【60.5% 全国比：+9.8】

●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。

【53.5% 全国比：-9.8】

●簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。

【69.8% 全国比：-5.1】

●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。

【39.5% 全国比：-5.4】

▲数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。

【86.0 全国比：-2.1】

▲球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。

【34.9% 全国比：-2.4】

《算数についての分析と取組》

- ・「変化と関係」の領域で『速さ』に関する問題に強みが見られた。また、国語同様、記述式問題に対しての正答率が高く、全問題における無回答率も低かった。
- ・「図形」の領域では、空間図形に対する図形の特徴等の理解、および、「数と計算」の領域では、文章表記された場面を式で表すことに弱みが見られた。
- ・式、計算、答え、だけでなくその式をたてた根拠を説明する等、言語活動を意識した授業を実践していく。
- ・「図形」の領域では、空間図形をより分かりやすくするために、ICT機器を利用した授業実践を行う。
- ・算数だけでなく、全教科を通じて、表やグラフを読み解く学習を行っていく。

全国学力・学習状況調査 結果(概要)Part2 ～児童質問紙より～

○：強み ●：弱み ▲：やや弱み ※【 】内は本校生徒回答割合と全国平均との差

《全国平均比較でトップボックスが5ポイント以上差のあるもの（抜粋）》

※ **トップボックスとは最も肯定的な回答のことです。**

〔生活編〕

- 人が困っているときは、進んで助けていますか。【57.1% 全国比：+11.1】
○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。【90.5% 全国比：+11.0】
○将来の夢や目標を持っていますか。【71.4% 全国比：+10.8】
○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。【47.6% 全国比：+17.4】
▲朝食を食べていますか。【88.1% 全国比：-5.6】 ※① 「88.1」は肯定的意見
※①

〔学習編〕

- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。【40.5% 全国比：+10.2】
○学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。【59.5% 全国比：+18.1】
○5年生までの学習の中でICT器機を活用することによって、友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる。【57.1% 全国比：+12.5】
▲普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。(塾、家庭教師の時間も含む)
※1時間以上 【49.9% 全国比：-4.7】
●土日、祝日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。(塾、家庭教師の時間も含む)
※2時間以上 【9.5% 全国比：-12.0】

〔その他〕

- 授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互い協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。【51.2% 全国比：+5.5】
○地域や社会をよくするためには何かしてみたいと思いますか。【59.5% 全国比：+22.7】
○今回の国語の問題での記述式問題に対してどのように解答しましたか。
[全ての書く問題で最後まで書こうと努力した] →→→→→ 【91.1% 全国比：+12.0】
○今回の算数の問題で言葉や数、式を使って書く問題に対してどのように解答しましたか。
[全ての書く問題で最後まで書こうと努力した] →→→→→ 【90.9% 全国比：+12.2】

〔考 察〕

- ・いじめはいけないことという意識の高さが、仲間を大切にできていると考えられ、人が困っているときは進んで助けるということにもつながっている。その他にも表記していませんが、「学校へ行くのが楽しい」「友だち関係に満足していますか」「自分には良いところがある」についての設問も肯定的な回答は全国平均と同等もしくは少し上回っているものでした。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の回答が高いのも、これまで(6年生まで)担任教師も持ち上がりは少なく、学年が上がるごとに変わったり、高学年での教科担任制等、多くの先生方の関りによるものと考えられます。これからも全教職員で子どもたち一人ひとりを大切にした教育活動を推進していきます。
- ・生活面の課題としては、朝食を摂る児童の割合がやや低かったことです。朝食こそが、午前中の学校生活の源となります。ご家庭でのご協力を何卒よろしくお願いいたします。
- ・学習面では、本校研修テーマである、

『みんなで授業をつくる～自分の考えをもち、自分の言葉で伝え合い、ともに学び続ける子～』を目指した授業づくりに取り組み、「児童と児童」「児童と先生」等の対話的な学び、および、子どもが主役となる授業づくりを意識してきた結果、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の回答が全国を上回っていたことは教職員にとっては励みとなる結果でした。今後も研修を深め、主体的に考える、行動する子どもたちの育成に取り組んでいきます。また、このような結果につながった要因には、ICT 機器の活用は欠かせないもので、みんなの意見、考えをあっという間に一覧として目にすることができ、そこから意見をやり取りする時間が生み出されたことが大きな要因であると考えます。今後も学力向上につながる効果的な活用を研修していきます。

- 今年度、鈴鹿市が取り組む非認知能力に関わると思われる質問の結果は下記の通りでした。

やりぬく力	分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することは出来ていますか。	92.8 (全国比 +12.1)
自制心	携帯電話、スマートフォン、コンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	78.6 (全国比 +7.5)
自己肯定感	自分にはよいところがあると思う。	85.7 (全国比 +1.6)
社会性	人が困っている時は進んで助けていますか。	97.6 (全国比 +4.9)

今後も「綴り方」の研修を重ね、取り組みを深めていきます。

- 学習面の課題は、家庭学習です。学校からも宿題は出しますが、予習や復習なども含め、家庭学習の習慣が身につくよう、家庭・地域・学校で協力して取り組みを進めていきたいと考えます。ちなみに、1学期に“家庭学習強化週間”を設け1週間の期間で、「学年×10分」を目標に取り組んだ結果、43.1%が取り組めたという結果でした。2学期も実施予定ですのでよろしくお願いいたします。

この児童質問紙の結果は、6年生のみの回答であり、どの項目も肯定的回答が100%ではないということは忘れず、教職員一同、本校で6年間かけてどのような児童の育成を目指すのか？という指標として分析し、研修を深め、目指す児童の育成に取り組んでまいります。

みえスタディチェック 結果(概要)

	国 語	算 数	理 科
5年生 みえスタ	(県比：+17.9)	(県比：+19.9)	(県比：+20.0)
4年生 みえスタ	(県比：+14.5)	(県比：+11.2)	

【 成果と課題 】

- 全教科、成果として、①県平均を上回っている。②無回答率が低い。③記述問題の正答率が高い。
- 同音漢字について、意味を理解しての書き分けに課題がある。
- 各教科とも、資料からの読み取りに課題が見られる。
- 問題場面の数量関係を捉え式にする。及び、式の意味を言語化することに課題がある。
- ここ数年の課題である「時間」や「時計」に関する問題に課題が見られる。

【 今後の取組 】

- 全教科を通して、言語化する活動を授業の中で行う。(表やグラフからわかること、式の意味等)
- 全教科を通して、答え方の統一。(理由を問われたら「～から」「だから」の表現等)
- 日常的に児童と「何時間経った?」「あと何時間?」等の質問をする機会を意図的に行う。
- 「綴り方」への取組を継続して行う。